



中城湾港泡瀬地区人工島環境レポート【平成17年度工事の環境監視結果】抜粋

○「場の創造」への取り組み

海草を移植する際に、より海草の生育に適した「場」を積極的に創造しながら、そこに移植を行っているという考え方です。

中城湾港新港地区西防波堤の建設で、その背後に海草の生育に適した静穏な場ができ大規模な海草藻場が形成され、この海域の海草藻場の面積を大きく増やしたことも、「場の創造」の事例となります。

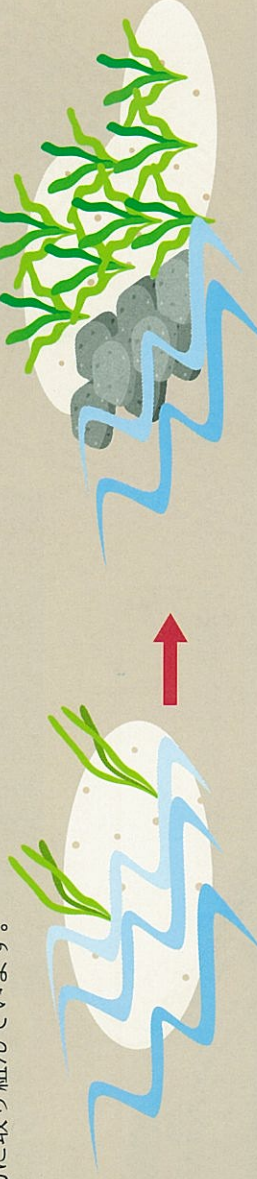


昭和52年 面積77ha



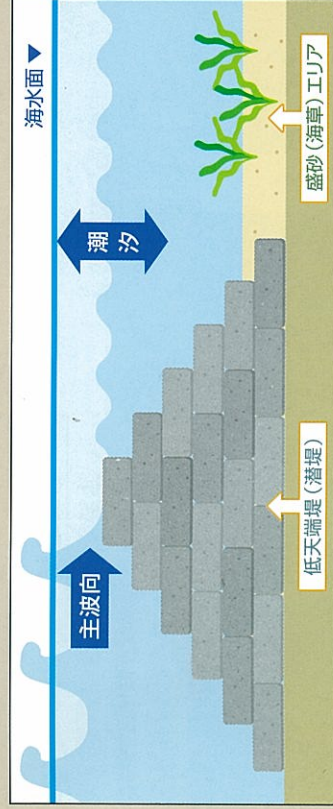
平成11年 面積212ha

この経験をもとに、さらに効果的な海草移植を行っていくため、海草の生育に適した「場の創造」に積極的に取り組んでいます。



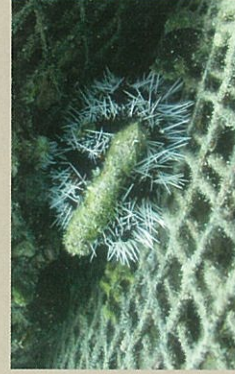
波当たりが強く、砂層が少ないため海草が生えにくい

波を抑え、砂層を確保することで海草が生える環境を創る



「場の創造」の実験は平成17年3月から行っており、波を抑えるための「低天端堤」と、背後に海草生育基盤の「盛砂」で構成されています。

盛砂は、海草が生えることでの砂の安定効果をみるために、「砂のみ」と「砂に海草混在」した箇所を分け、比較を行っています。



波を抑える低天端堤には魚やウニの生息する魚礁としての効果も期待されます。

「砂に海草混在」箇所の状況  
平成18年11月撮影